

タイトル：「吸ってもいい？」の進化形

ほとんど定型句となっている喫煙者のセリフに、「タバコ、吸ってもいい？」というものがある。

煙草に火を灯す前の前置詞、あるいは枕詞（まくらことば）と言えるかもしれない。

私は喫煙者である。けれど本数は少なく、1日あたり1、2本程度だろうか。だが、そんな者でも煙草に手が伸びる場面はあり、それがお酒の席である。

特にも少人数のまったりとした飲み会などだ。この場合のメンバーは、付き合いの長短や男女の別は関係なく、ウマの合う相手であることが重要である。気の合う面々と、気の抜けたビールを片手に、気をつかわない話を楽しむ。

このとき店が禁煙でなければ、つい会話の隙間に煙をくゆらせたくなる。だが、隣に座っているのは非喫煙者だ。

そんなとき、「タバコ、吸ってもいい？」が登場する。

このセリフは最低限の礼儀だと思うので私もよく使うが、これに対して

「いえ、吸っちゃダメです」と返答した人を見たことがない。

健康上の問題とか子供連れであるとか、そういった確たる理由が無いかぎり、

「あ、どうぞ」とでも答えるのが一般的だろう。

内心、煙草は遠慮してほしい、と思っている人も許可しているのではないか。喫煙者側も嫌がられながら吸うわけで、どちらにとっても幸せな予定調和ではありえない。

何か、より効果的な表現がないものだろうか。

たとえば

「僕、普段は煙草を吸う人なんだけど、今は我慢してるから」

……これはいけない。イヤミで、しかも当てつけがましい。嫌われる。

「煙草、吸ってもいい？ ダメだったら、遠慮しないで言っていから、本当に。で、吸ってもいい？」

……ありえない。しつこい。逆に「別にいいから勝手にどうぞ」というヤケクソな気持ちにさせてしまう。

考えてみると「タバコ、吸ってもいい？」の欠点は、喫煙を遠慮してもらうために「いいえ」で回答する必要があることかもしれない。できれば「はい」で拒絶できるセリフがいいわけで、思いつくのは

「ちょっと外でタバコ吸ってくるから」

くらいである。

これなら「はい」と答えればよく、仮に煙草を気にしないなら「いえ、ここでどうぞ」でいい。なかなか理想的ではないだろうか。

ただしこれも完璧ではなく、煙草はダメだが隣にいてほしい、という人からは

「タバコはダメだけど、ここにいて」

と返されることになるが、これは、それほどまでに愛されているわけで、さすがに煙草を我慢するしかなさそうである。